

事務局報告

平成16年度の学術大会は、楢林勇 大会長（大阪医大）のもとで10月15日（金）、16日（土）の両日に大阪府豊中市の千里ライフサイエンスセンターにおいて開催された。メインテーマは「断層映像の飛躍-US、MD-CT、MRI、SPECT、PET、PET-CT-」であり、CT画像の三次元化、PET-CTなど、最近の断層映像に関するさまざまな話題が取り上げられた。大会の構成は特別講演、シンポジウム、ワークショップ、テクニカルノート、教育講演、一般演題からなり、内容は盛りだくさんであった。

シンポジウムのテーマは「マルチスライス時代を迎えたCTの被曝について」（司会：中村仁信先生、大野和子先生）と、「FDG-PETによる腫瘍診断のガイドライン」（司会：久保敦司先生、日下部きよ子先生）であり、前者ではMD-CTの普及により医療被曝が増大してきたこと、特に小児の被曝では発癌リスクの点で無視できないことが社会問題にまでなっているが、これらの点を含めて4人の演者から報告があった。被曝については撮影検査時に当然留意すべき事項であるが、3D-CTでは血管造影の代替により医療全体としては被曝低減につながっていること、いっぽうCT像の画質の点で装置側にも余分な被曝を与えないような工夫が求められていることなど、医療機器メーカーも含めて幅広い見地からこの問題を捉えていく必要があることが改めて浮き彫りにされた。後者のFDG-PETに関しては、一昨年の保険収載以来、腫瘍診断には欠かせなくなってきたが、院内製造のFDGなどの薬剤品質管理やPET検査の安全管理体制の確立など、診療現場におけるガイドラインについて広報周知の重要性が論じられ、現在の核医学分野での最大のテーマであるだけに時宜を得たものであった。ワークショップは、「MD-CT3次元画像の処理方法と実用的活用法」（司会：片田和廣先生、福田国彦先生）のテーマで5人の演者から発表があり、部位別では中枢神経系、心臓、腹部、骨盤領域を中心に血管像、内視鏡モードなどの3次元画像処理法とその臨床応用について活発な討論が行われた。

特別講演は徳島大学の西谷弘教授（放射線医学）が「超多断層画像時代のフィルムレスホスピタル」の題名で、徳島大学病院で付設された画像情報のネットワーク構築の詳細について講演された。新しい技術の導入にあっては、診療の現場でさまざまな要望や抵抗があるのが常であるが、それらに対してご自分の理念を貫き通され、年毎に増大する画像情報

の取り扱いについて、利用者側の利便性も考慮したうえで病院全体の診療体系の改革に手をつけられたところに感服させられた。

教育講演は全部で8題あり、小生には特に藤田典彦先生の「脳機能MRI」と村田喜代史先生の「読影に役立つびまん性肺疾患のCT像」などが興味深く拝聴できた。このほかにテクニカルノートでは、ランチョンセミナーとして「PET-CT装置の最新技術と臨床導入状況」のテーマで国内5社からPET-CT装置の開発過程と最新装置の紹介があった。一般演題は計20題の発表があり、昨年と同様に口演以外に展示形式でも発表されたので、診断画像について落ち着いて見ることができた。

今回の第34回大会は福田国彦教授の大会長のもとで平成17年10月15日（土）、16日（日）に東京慈恵医大放射線医学教室主催で開催される。断層映像を中心とした画像診断の技術的進歩は目覚しく、臨床応用もさまざまな分野で新たな手法で展開しており、会員諸氏からの多くの研究成果の発表を楽しみたい。

平成16年度断層映像研究会世話人会議事要旨

日時：平成16年10月15日（金）12：35～13：35

場所：千里ライフサイエンスセンター

9階 901号室

出席者（50音順）：伊藤勝陽、井上佑一、宇野公一、北垣 一、吉川公彦、宍戸文男、田中良明、田村正三、中尾宣夫、中條政敬、中村仁信、楢林 勇、西谷 弘、早瀬尚文、福田国彦、藤井恭一、星 博昭、本田憲業、村山貞之、吉田祥二

議長：楢林 勇

議事：

1. 平成15年度の事業報告、決算報告、監査報告（藤井恭一、福田国彦両監事）が行われ、別紙のように承認された。
2. 庶務報告として、会員数、会員動態および会費納入状況が報告された。会員数は、平成16年9月30日現在で333名（うち38名は特別会員、11名は功労会員）、会員動態は平成15年4月1日から平成16年3月31日の間に新規会員18名、退会26名である。会費が3年以上未納の会員は退会が原則だが、督促すると共に、会員継続の意思確認を行い退会希望者には退会手続をとることになった。長期滞納者については、名簿上は残すことになった。
3. 平成16年度上半期の事業中間報告が行われた。

4. 平成17年度の事業計画、予算案について報告され、別紙のように承認された。

5. 平成16年10月14日(木)開催の編集委員会の報告が、本田編集委員長より以下の通り行われた。

1) 層映像研究会雑誌編集状況および今後の編集方針について

(1) guest editor制の目的を述べ、今後guest editor就任を引き受けて下さるようお願いした。また雑誌広告の声掛けもお願いした。

(2) 今回の学術研究会で特別講演と教育講演をしていただいた先生方に雑誌掲載をお願いすることとし、全員一致で賛同が得られた。論文の数を見て来年の抄録号までに全て掲載する

(3) 2006年2月号guest editorに琉球大学 村山貞之教授が推薦され快諾された。

(4) 本研究会誌をsecondary publication とする案について本田編集委員長より資料に基づき説明があり、了承された。

2) 電子ジャーナルについて、現在の雑誌制作会社(株式会社アンダーライン)が電子ジャーナルへの変更を請負って下さるとの事。

3) 次々々期(平成19年度)の大会長推薦について討議され、大友邦教授(東京大学)が推薦され、承認された。なお、次々々々期については本田浩教

授(九州大)が推薦され、内定した。

6. 世話人として、平木祥夫先生(岡山大学前教授)の後任に金澤右先生が、林邦昭先生(長崎大学前教授)の後任に上谷政孝先生が推薦され承認された。また、筑波大学の南学先生が推薦され承認された。

7. 特別会員として長崎労災病院の林邦昭先生、総合健保健康管理センターの町田喜久雄先生が、功労会員として蜂屋順一先生(杏林大学前教授)が推薦され、承認された。

8. 来年度大会長の福田国彦先生(慈恵医大)より、第34回大会が平成17年10月15日(土)、16日(日)に慈恵医大で開催予定との報告があった。

9. この1年間の物故会員は河村文夫先生、篠崎達世先生、草野正一先生の3名である。

以上

平成16年度断層映像研究会総会議事要旨

日時:平成16年10月15日(金)13:40~13:50

場所:千里ライフサイエンスセンター

議事:植林勇大会長の議長のもとで議事が進められ、上記の世話人会報告および編集委員会報告が行われ、いずれも原案通り承認された。

(文責:事務局 田中良明)

1号議案:平成15年度事業報告及び庶務報告

1)平成15年度事業報告

1. 総会 1回

平成15年11月14日(金)

東京都千代田区、日本学生会館

2. 第32回断層映像研究会学術大会

平成15年11月14日(金)、15日(土)

学術大会長 田中 良明(日本大学)

3. 世話人会 1回

平成15年11月14日(金) 東京都千代田区

4. 編集委員会 1回

平成15年11月13日(木) 東京都千代田区

5. 研究会雑誌の発行

第30巻1号 (H.15. 5. 31)発行

第30巻2・3合併号 (H.15. 9. 30)発行

第31巻1号 (H.16. 3. 31)発行

2)庶務報告

資料1

2号議案:平成15年度収支決算報告ならびに監査結果報告

1)収支決算報告

資料2

2)藤井恭一、福田国彦監事より監査報告

3号議案:編集委員会報告

編集委員会

平成16年10月14日(木)豊中市、千里阪急ホテル

検討内容報告

1. 断層映像研究会雑誌編集状況および今後の編集方針について

2. 庶務報告

1)平成15年度事業報告、決算報告

2)平成16年度事業中間報告

3)平成17年度事業計画、予算(案)について

3. 電子ジャーナルについて

4. 次々々々期(平成19年度)の大会長推薦について

4号議案:平成17年度事業計画および予算案

1)平成17年度 事業計画

1. 総会 1回

2. 学術発表会 1回

3. 世話人会 1回

4. 編集委員会 随時

- 5. 研究会雑誌の発行 3回
(うち一回は大会抄録号を兼ねる)
- 2) 平成17年度予算書(案)

資料3

- 5号議案：世話人推薦の件
- 6号議案：特別会員推挙の件
- 7号議案：その他

資料1

庶務報告

1. 会員数(平成16年9月現在)

会 員	3 3 3名
特別会員	3 8名
功労会員	1 1名
合計会員数	3 8 2名

2. 会員動態(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

新規会員	1 8名
退会	2 6名

資料2-1

平成15年度収支決算報告書
(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

(△減)

1. 収入の部				2. 支出の部			
項 目	予 算 額	決 算 額	増 減	項 目	予 算 額	決 算 額	増 減
会 費	1,800,000	1,580,000	220,000	報 償 費	250,000	0	250,000
利 子	500	104	396	賃 金	0	0	0
雑 収 入	0	5,460	△5,460	旅 費	180,000	45,000	135,000
前年度繰越	1,500,000	952,515	547,485	需 要 費	50,000	68,198	△18,198
				役 務 費	100,000	112,757	△12,757
				使用貸借料	50,000	0	50,000
				負担金及び補助金	1,750,000	937,000	813,000
				予 備 費	100,000	0	100,000
				次年度繰越	820,500	1,375,124	△554,624
合 計	3,300,500	2,538,079	762,421	合 計	3,300,500	2,538,079	762,421

次年度繰越内訳

郵便振替口座	842,040円
郵便貯金総合通帳	172円
定期預金(東京三菱銀行)	400,538円
普通預金(東京三菱銀行)	132,374円

(平成16年3月31日現在)

計1,375,124円

資料2-2

平成15年度収支決算報告明細書

1. 収入の部 明細

項 目	金 額	備 考
1. 会 費	1,580,000	
2. 利 子	104	定期預金 92 普通預金 0 郵便貯金総合通帳 12
3. 雑 収 入	5,460	会誌代
4. 前年度繰越金	952,515	
収入合計	2,538,079	

2. 支出の部 明細

項 目	金 額	備 考
1. 報 償 金	0	
2. 賃 金	0	
3. 旅 費	45,000	編集委員会旅費
4. 需 要 費	68,198	封筒作製代・事務用品代
5. 役 務 費	1,575 106,412 4,770 小計 112,757	振込手数料 切手、葉書代 宅急便送料
6. 使用賃借料	0	
7. 負担金及び補助金	200,000 735,000 2,000 小計 937,000	編集委員会補助 会誌発行費 学術著作権協会契約手数料
8. 予 備 費	0	
9. 次年度繰越	1,375,124	
支出合計	2,538,079	

資料3

平成17年度 予算書(案)
(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

収入の部

単位:円

項 目	17年度予算額	16年度予算額	増 減
会費収入	1,600,000	1800,000	△ 200,000
利子	100	500	△ 400
雑収入	0	0	0
前年度繰越金	800,000	1,000,000	△200,000
収入合計	2,400,100	2,800,500	△400,400

支出の部

項 目	17年度予算額	16年度予算額	増 減
報償費	250,000	250,000	0
賃金	0	0	0
旅費及び会合費	40,000	60,000	△ 20,000
需要費	70,000	50,000	20,000
役務費	120,000	100,000	20,000
使用賃借料	10,000	10,000	0
負担金及び補助金	1,500,000	1,750,000	△ 250,000
予備費	50,000	100,000	△ 50,000
次年度繰越金	360,100	480,500	△ 120,400
支出合計	2,400,100	2,800,500	△400,400
差引額	0	0	0